

教育広報

県北の教育

発行所

福島県教育庁県北教育事務所

福島市舟場町2番1号

電話024-523-1647

発行者 芳賀祐司

ちょっと立ち止まって

県北教育事務所 次長 伊藤 隆幸

教員になってこれまでずっと自家用車通勤で、全くといっていいほど通勤で歩くことがなかった。現在の事務所に移転してからは、駐車場から10分ほどではあるが歩いて通勤している。その500mほどの歩く道の中ほどに阿武隈川に架かる松齢橋がある。1925年(大正14年)に架けられた橋で、戦前に作られた橋が、代替橋が架けられても壊されなかったのは珍しく、時代を感じさせる凝った意匠の街灯も橋の両側に残っている。

今では、川の風景を毎朝見ることがちょっとした楽しみになっている。通勤でこの橋を渡るようになってから、驚く光景をいくつか目にすることができた。

その一つは、毎年9月ごろになるとアミメカゲロウが大発生する。晩夏初秋には橋の夜間照明を消灯し、橋梁に集虫灯を設置する。集虫灯の下の川面には大量のカゲロウが発生するが、そこに50cmほどの大きな鯉が大量に(この川にこんなに鯉がいたのかと思うほど)集まり、大きな口を開けてカゲロウを食べているのだ。カゲロウの大発生をどうやって知るのだろうと不思議に思う。帰宅する途中に見た光景を思いながら、翌朝、出勤時に川面を見るとカゲロウの死骸は浮いているが、鯉の姿は全くない。

もう一つは、鮭の遡上である。10月から11月にかけて、橋の上から鮭の遡上を見ることが



できる。松齢橋の袂に立つ看板には「太平洋まで77キロ」との表示がある。福島市は標高が60mほどだが、福島県と宮城県の境界付近では、渓谷を抜ける急流もある川を77kmも遡上してくるため、橋の上から見る鮭は婚姻色は残るものの白っぽくなり傷だらけになっている。普通は1日数匹の姿を見るだけだが、今年の11月のある日は、松齢橋の舟場町側の流れの緩やかなところに数十匹の鮭の泳ぐ姿を見ることができた。「何日かけてここまで遡上してくるのだろう。産卵に適した場所があるのだろうか。」様々な思いが浮かんでくる。遡上する鮭の姿を見なくなって数日たつと今度は、川岸と川底に鮭の死骸を見かけるようになる。産卵を終

え、一生を終えた鮭の姿は、橋から見えるだけでも数十匹見ることができ、それを見ると何ともいえない感情が込み上げる。

そんなある日、ふと中学校1年の国語の教科書にあった「ちょっと立ち止まって」という文章を思い出した。1つの景色でも、物事でも、人物でも多様性を秘めている。「物を見るときは他の見方を試すことで、他の面に気づき、新しい発見ができる」「ちょっと立ち止まって」他の見方も試してみようという要旨の文章である。見方を変えたわけではないが、歩くということにより、いままでの日常で、目にすることがなかった光景を目にし、新たな経験と、新たな感動を得ることができた。歩かなければ味わえない光景が身の回りにはたくさんあることを実感した。

先ほどの松齢橋の上からの風景でも、私が立ち止まって川の鮭を見ている姿を見て、毎日、散歩をしている夫婦が川面を見つめ鮭を発見し、「鮭がいる」と大きな声を上げていた。毎朝、同じ道を歩いていても気づかないものは気づかないのだ。物事や人物を見るときには、動きながら見るか、止まってみるか、近くで見るか、遠くで見るか、上から見るか、下から見るか様々な見方があることに気づく。また、見ようとしなければ見えないこともたくさんある。

私たち教員は、毎日、子どもたちと生活をともにする中で、また、毎日、授業をする中で日常的に見たり、感じたりすることに慣れてしまっていないか、子どもも授業も違う角度から見れば新しい見方ができ、子どもたちのよりよい成長や授業のよりよいあり方に迫れるのではないかと感じる。「ちょっと立ち止まって」日々の教育を振り返ってみることの大切さを再確認できたような気がする。



平成26年度第43回福島県教職員研究論文入賞者表彰式

今年度、県北域内では8点の応募があり、特選1点、入選1点、奨励賞1点が入賞しました。いずれの論文も「生きる力」の育成を目指して、子どもたちが自ら課題をもって解決に立ち向かうための取組が具体的に論じられていました。

受賞、応募された個人、団体は次のとおりです。

【特選】

個人研究 伊達市立保原小学校 教諭 石川 淳
研究主題 地域に対する誇りと愛情をもつ児童の育成
～社会科第4学年地域素材の活用を通して～

【入選】

共同研究 伊達市立保原小学校 校長 佐藤 義仁
研究主題 人とかかわりながら課題を解決できる子どもの育成
～「学び合い」を中心として～

【奨励賞】

共同研究 川俣町立川俣中学校 校長 高橋 友幸
研究主題 「確かな学力」の向上を目指した教科指導の工夫
～思考力・判断力・表現力を育む学習指導を通して～



<応募者>

共同研究	学習指導	福島市立平野小学校	校長	山内 雄和
個人研究	学習指導	福島市立福島第二小学校	教諭	竹田 朋彦
個人研究	学習指導	伊達市立小手小学校	教諭	川村 国央
個人研究	学習指導	国見町立国見小学校	教諭	高橋 秀幸
個人研究	学習指導	二本松市立油井小学校	教諭	根本 芳宏



第2回学力向上推進研究協議会

2月3日(火) 県教育センターで、各学校の学力向上策の効果的な実践を図るために、学力向上推進研究協議会を開催しました。概要は次の通りです。

1 講義

- (1) 「確かな学力の向上をめざして」
 - ・平成26年度の要請訪問を振り返って
 - ・平成27年度の指導の重点全体構想等
- (2) 「福島県学力調査から見た課題と対応策」
 - ・福島県学力調査の結果及び考察
 - ・課題に対する対応策等

2 実践報告

学力向上のための「つなぐ教育」推進事業の実践報告がありました。3つの中学校区において、小中の連携による学習・生活習慣の定着、保護者や地域との連携を図った取組が紹介されました。

- 桑折町立醸芳中学校区(醸芳中、醸芳小、睦合小、半田醸芳小、伊達崎小)
発表者 校長 五十嵐 正彦(睦合小学校)
- 二本松市立小浜中学校区(小浜中、小浜小)
発表者 教諭 宮本 美幸(小浜中学校)
- 二本松市立岩代中学校区(岩代中、新殿小、旭小)
発表者 教頭 大内 晋(岩代中学校)

それぞれの地域の子どもたちの実態をとらえ、目指す子どもの姿や具現策をみんなで共有して取り組んでいる様子がありました。学ぶべき点がたくさんあった報告でした。

3 研究協議

同じ学校規模で小グループを作り、持参資料「学力向上に関わる有効な実践」について情報交換を行いました。各学校が実践してきた学力向上策は、それぞれ大変参考になる内容で、グループごとに熱心な協議が行われました。さらに多くの情報を共有できるように、県北教育事務所のHP(<http://www.kenpoku-co.fks.ed.jp>)にテーマ等を分類して掲載します。自校の実態に応じた手立てを取り入れて学力向上策の改善に役立てていただければと思います。



年度末に向けて

本年度、最重点目標として「飲酒・わいせつ・体罰」のゼロを掲げ、各学校に実効ある取組をお願いして参りました。お陰様で県北域内では、懲戒処分件数が大幅に減少しました。これも各学校の不祥事防止に向けた実効ある取組の成果であります。しかしながら、管理職のセクシャル・ハラスメントが発生するなど、県全体では依然として不祥事の根絶には至らない状況が続いています。これから、送別会等の酒席も多くなると見られます。飲酒運転の絶無についても特にご配慮いただき、今後も、「信頼される学校づくり」を職場の力で(改訂版)の最新事例の活用や校内服務倫理委員会を通して学校全体で危機意識を共有するなど、不祥事の絶無を目指した取組の継続をお願いします。

また、この時期は、多忙ゆえに予期せぬ事故が起こることがあります。次の3つについて、特に注意をお願いします。

(1) 校舎・校地への不法侵入防止及び学校火災防止

12月に小学校校舎への不法侵入事案が発生しました。通常の校舎巡視はもちろん、個人、日直、管理職による重層的な点検の徹底など、安全確認や安全点検のマンネリ化防止に努めてください。

(2) 交通事故の防止

3月でも、降雪による圧雪や路面凍結によるスリップ事故が心配されます。降雪時には、時間と心に余裕をもった運転を行うことが大切です。

(3) 情報管理の徹底

年度末は、事務が繁雑になる時期です。情報管理を徹底するため、紙媒体、電子媒体を問わず、各種情報の紛失や流失防止に細心の注意を払ってください。



総務社会教育課(社会教育)

～ 十七字 つなげる想い つなぐ夢 ～

十七字のふれあい事業

今年もたくさんのご応募をいただきまして、ありがとうございます。県北域内では、3,812組(昨年:3,526組)の応募があり、県全体では37,748組(昨年:36,055組)ありました。

県北域内の入賞作品をご紹介します。



【優秀賞】ふたあけて ゆげでへんしん わたしシェフ (本宮小1年 佐久間 優凧)
今日は助手 シェフの隣で 下準備 (母 佐久間恵理子)

【優秀賞】おばあちゃん 背中ばくが 洗うから (庭坂小6年 菊地 卓斗)
不自由な 腕に気遣う 孫優し (祖母 菊地ヨシイ)

なお、平成26年度「十七字のふれあい事業」県北優秀作品(全10作品)は、県北教育事務所のホームページ(<http://www.kenpoku-eo.fks.ed.jp>)で御覧いただけます。

～ 「親子の学び応援講座」～ モデルPTAへの支援

家庭教育の推進に向けて、県北域内にモデルPTAを設置し、親の学び・家庭での実践活動を支援するため、「親子の学び応援講座」を3回実施しました。

- 第1回 6月24日(火) 伊達市立月舘中学校PTA 講師:阿部昇先生(秋田大学教授)
テーマ:生活習慣と学力向上 参加者:保護者、生徒、教職員(約100名)
- 第2回 9月7日(日) 二本松市立油井小学校PTA 講師:明石要一先生(千葉敬愛短期大学学長)
テーマ:子ども達の生活習慣 参加者:保護者(約200名)
- 第3回 11月27日(木) 福島市立渡利小学校PTA 講師:阿部昇先生(秋田大学教授)
テーマ:生活習慣と学力向上 参加者:保護者、教職員等(約150名)

家庭教育に関して識見の高い講師を招き、家庭の大切さや学校、地域のつながりについて講演をいただきました。講演会を通して保護者の家庭教育への意識を高めることができました。



福島県総合計画「ふくしま新生プラン」

主要施策（教育分野）
「知・徳・体のバランスのよい育成と生き抜く力をはぐくむ教育を進めます」

- 主な取組
- 豊かな心の育成
 - 健やかな体の育成
 - 確かな学力の育成

第6次福島県総合教育計画

基本理念 “ふくしまの和”で奏でる、こころ豊かなたくましい人づくり

基本目標

- 知・徳・体のバランスのとれた社会に貢献する自立した人間の育成
- 学校、家庭、地域が一体となった教育の実現
- 豊かな教育環境の形成

力強く歩む子どもを育てる県北の教育

引き出し、認め、伸ばす教育活動

意欲 思考 表現

自信 自己肯定感

『確かな学力の向上』

「意欲的に課題に取り組み、解決する子ども」

- 問題解決的な学習を中軸とした授業の充実
 - 単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫
 - ねらいからまとめまでの整合性を図り、子どもの思考を大切にしながら、目指す子どもの姿と手立てを明確にした授業の設計
 - 必然性があり意欲が高まる学習課題の設定と解決への見通しをもたせる工夫
 - 思考を促し、見取り、生かす教師の働きかけの充実
 - 思考の共有と吟味を促す学び合いをコーディネートする力の向上
 - 学習内容の定着を図る振り返る活動の充実
- 主体的な学習につながる基盤づくり
 - 学習状況の分析を基にした「学習の仕方」「学習規律」等の改善と共通実践
 - 学習・生活習慣をより向上させる幼保小中の連携による共通実践
 - 読書の意欲と質を高める環境整備と意図的な働きかけ
- 授業力を高める研修の活性化
 - 目指す子どもの姿と具現のための手立ての共有化
 - 授業を開き、同僚性を発揮した研究実践の推進
 - 客観的なデータや資料等を活用した授業の評価と改善

『豊かな人間性・社会性の育成』

「心が通う人間関係を築く子ども」

- 互いの気持ちを「伝え合う力」の育成
 - 自らの教育活動において、自分の気持ちを伝え、他者の気持ちを受け止める態度の奨励や支援の充実
 - 自己の深い理解と他者を共感的に理解する心を育てる道徳教育の充実
 - 役割意識をもち、互いに関わり合う特別活動の内容・方法の工夫
- 自己の生き方を考える教育活動の推進
 - 自己決定の場を保障し、成果を認め、自信を深めさせる指導の工夫
 - 目標達成の過程で、失敗や困難を乗り越える経験を成長に生かす指導の工夫
 - 自分の特徴や適性に気づき、夢や希望の実現を目指すキャリア教育の推進
- 子どもの心に寄り添う支援の充実
 - 子どもの変化の見取りとチーム等の組織による積極的・継続的な支援
 - 教育相談体制の一層の充実と外部人材や関係機関と連携した心のケアの推進
 - 問題行動の未然防止、早期対応のための家庭・地域と連携した実効ある取組

『健やかな体の育成』

「進んで体力の向上と健康づくりに励む子ども」

- 積極的に運動に親しむ態度の育成
 - 体力向上推進計画書に基づく体力向上策の共通理解・共通実践
 - ねらいを明確にした体育・保健体育の授業の充実
 - ・ 改訂運動身体づくりプログラムの共通理解・共通実践（小）
 - ・ 運動の習慣化につながる「体づくり運動」の工夫
 - ・ 実質的な運動の時間の確保と動きの質を高める授業の工夫
 - ・ 運動の系統性や「発達の段階のまとまり」を踏まえた指導の工夫
 - 運動（遊び）の楽しさを味わい、意欲的に取り組む環境づくり
 - ・ 運動（遊び）したくなる場や機会の工夫
 - ・ 季節ごとの運動（遊び）の指導計画の作成・共通実践
 - ・ 自分の目標をもち、仲間と切磋琢磨して運動しようとする機運を高める工夫
- 健康で安全な生活を実践する態度の育成
 - 健康に関する知識を身に付け、自ら実践する力を育成する指導の推進
 - 給食指導を活用するとともに、家庭や地域と連携した計画的な食育の推進
 - 身の回りの危険を予測し、回避する能力を育む指導の推進
 - 主体的に判断し、行動する態度を育む防災教育・放射線教育の充実
 - 家庭、地域と一丸となった交通安全指導の徹底

特別支援教育の充実

学級・学習集団づくり

幼稚園教育の充実

- 全教職員の連携・協力による校（園）内支援体制の充実
 - 特別支援教育コーディネーターを中心とした校（園）内委員会や研修会、ケース会議の活性化
 - 教職員間での支援策の共有化と役割の明確化
- 一人一人のニーズに応じた指導の充実
 - 子どもの特性や教育的ニーズに基づく指導のねらいと支援方針の明確化
 - 「個別的教育支援計画」の作成・活用と「個別の指導計画」を基にした授業の工夫・改善
- 集団の中で助け合い共に伸びる友達関係づくりへの支援の充実
 - 互いのよさや特性等を認め合う集団づくりの推進
 - 教師が仲立ちとなり適切に関わり合わせるための支援の工夫
 - ねらいを明確にした交流及び共同学習の組織的・計画的な推進
- 家庭・地域及び関係機関との連携強化
 - 保健福祉等の関係機関との連携と特別支援学校のセンサース的機能の積極的な活用
 - 各種便りや研修会等による家庭や地域への特別支援教育の継続的な普及

安心感

存在感

向上心

- 幼児一人一人を育む長期的な見通しをもった指導計画への改善
 - 幼児一人一人の発達の実情や地域のよさを生かした特色ある教育課程の編成
 - 生活及び発達や学びの連続性を踏まえた指導計画の作成
- 主体的な活動が確保される保育環境の充実
 - 教師の人的環境としての役割の自覚と具体的な環境の整備
 - 幼児期運動指針に基づき、進んで運動に取り組む指導の工夫
 - 特別な支援が必要な幼児の実態に応じた指導内容・方法の充実
- 幼児の発達する姿やよさに目を向けた評価の充実
 - 次の手立てや支援に生かすための評価の工夫
 - 保育カンファレンス等を基にした幼児一人一人の発達を促す保育の工夫

関係機関との連携

- 各関係機関の機能を理解した効果的な活用
- 各校種の実態、教育内容の理解に基づいた指導方法の改善

家庭や地域社会との連携

- 望ましい生活習慣、学習習慣の確立
- 家庭や地域社会の教育力を生かした教育活動の充実